

秋山禮生騎兵隊
見是軍書

附砲兵中尉石井忠利、右翼縱隊、軍務課步兵大尉岡谷隆二郎、大本營海軍參謀大尉飯田萬之進、
一、中隊、
又、軍司令部、
縱隊、
山崎兵少佐より昨夜十時當城子、登セル迄、
見是軍書、得タリ

一、諸情報、
實ナリ

二、敵へ進入スルハ敵ノ敵腹後面諸砲臺概
子三百米突以上ノ諸高地、アリ、ケ何レノ道

路より攻撃縱隊ヲ前進セシムルモ五、六千米
奥間ハ砲臺より縱射及側射ヲ免レヌ

三、敵腹攻撃、
一、東シ敵腹本道より水師營ヲ經、軍ノ首力ヲ

牽テ敵腹市内ニ迅速ニ侵入スル。アリ、例令
其目的ヲ達スル能ハサルモ水師營北方約三

千米突ノ高地ニ於テ遂に兵ヲ安全ニ收容ス
ルヲ得ヘシ敵腹後面砲臺ノ諸砲ハ砲聲ニ

依テ想像スルモ小口径ノ砲多ク其砲聲ノ効
力モ實見上極メテ微ナリ且地形波狀多ク

以テ多少攻撃隊ノ動作ヲ隱蔽スルヲ得ヘシ
四、旅順攻撃、間スル他ノ方策ハ旅順練兵場西
方約四百米突ナル高地(標高約五百四十米突)
、樹ル二砲台並ニ地ヲ先ツ占領スル、在
リ此方策ヲ用ヰンハ軍ノ首力ヲ土城子ヨ
リ石嘴ヲ以テ經テ水師營西方ノ高地ヨリ
進入セシメノナル可ラス此攻撃法、就テ最大
困難ハ五百米突餘アル高地ヲ攻撃隊ヲシテ
攀登セシムル、アリ此攻撃法ヲ行ハシムハ
水師營西方諸高地、在リ諸道路ハ詳細ノ便

察ヲ遂ケタル可ラス

五、各攻撃縱隊ハ何レノ點ヨリスルモ工兵ヲ
所屬セシムルヲ必要ナリ且各部隊ノ連絡ヲ
確實ニスル為ノ時兵大隊ハ各攻撃縱隊、分
屬セシムル可ラス

六、三十里煙臺ヨリ辛寨子、金溝ヲ經テ旅順、通ス
ル山間ノ道路ハ強大ノ縱隊ヲ前進セシムル
ヲ困難ナリ且車輛通セサルヲ以テ糧食ノ補
給、旅順市街道上青木城郭、双台溝、西長嶺子
等ヨリ臨時ノ糧食隊ヲ編成シテ補給セシム

ル方便ナラン

敵ハ旅順ヲ固守スルヲ利然タルヲ以テ此山
間ヲ前進セシムル艱難ハ寡少トナレ若シ
増加ヲ要スル場合ハ西長嶺子附近ヨリ鞍子
嶺・子嶺ノ西方營至石・英・通スル道路
ヨリ前進セシムルヲ可トス之レ旅順本街道
ハ物資・富ミ道路極メテ善良ニシテ糧食揮
舞ニ補給極メテ容易ナレハナリ
長嶺子ヨリ營至石・至ル道路偵察ノ略圖ヲ
添フ

尚々旅順水師營附近ノ疎情地約ニ間エテ諸
報告ハ第一師團司令部、報告ニ置カシ

備考

前述ノ考定、基ニ南搜索隊ハ實力ヲ用ヒテ
水師營方面、前進シ其一部ヲシテ李家屯及
石嘴ノ要點ヲ占領セシノ其大部ヲ以テ水師
營西方ノ高地ヲ搜索セシムルヲ必要ナラン
此陸歩兵ノ機動ヲ要スルヲフルヘシ只今報
告、ヨレハ双台溝北方約二里ノ小嶺附近、
在リテ電燈ヲ以テ我對節ヲ窺フ汽船アリ此

方面。於テ敵ノ上陸動作ヲナスヲハ退潮甚
タシキヲ以テ實際為シ得可クナルヲナラシ
ト想定スルニ為ル

此方面ヨリ軍艦ヲ以テ航行軍艦隊ヲ側射ス
ルヲハ其距離遠大ナルヲ以テ危難少ナルハ

騎兵第六大隊、第十中隊、當座城子、来リ

本官指揮、屬スル操御下令ニ包テ

而シテ軍司令官ハ右ト同時、敵情殊ニ敵同船ノ

北方沿海、出没スルノ情報ヲ度ケ

時神尾秀雄ノ三十里堡發、俟ル情報ヲ得タリ乃

々始メハ昨十六日、於ケル歩兵第二聯隊第三大

隊ノ竜頭附近ノ戰關ハ

八言、據シハ一昨日マテ旅團ニ在リシ運送船二

艘ハ十六日、ハ見ヘス又一昨十五日秋山騎兵少

佐ノ水師營ニ至リシ時ハ背面防壁線上ニハ急テ

白旗ヲ翻シテリ而シテ水師營、達スルヤ白旗ヲ

倒シ砲撃ヲ始メタリ其砲ハ約十五研米ニシテ又

各砲台、ハ二乃至三門位ノ備砲アリト

翌十八日搜座騎兵隊ハ第二中隊(一小隊半欠)ヲ前

土崎子附近ノ戰門

衛トシ午前七時常城子ヲ出發前進シ午前十時精
進、去本隊ヲ以テ山潤堡、達シタリ時、敵ノ騎兵
約五十騎、歩兵約二百名、土城子南方高地、據シテ
ヲ發見シタルヲ此敵ノ舉動ハ從來、異リテ容易
ニ退却セス且、其位置ハ元來該砲口背面防禦ノ
為ノ重要ナルヲ故、鉄山少佐ハ其兵力ハ微弱
ニアラサルヲ察シ尚、其兵力ヲ取圍セシメテ之
ヲ殲滅スル為ノ前衛タル第一大隊第二中隊（一小
隊半欠）ヲ土城子、置キテ右側前ノ警戒、任シ本
隊タル第一大隊第一中隊（一小隊欠）及第六大隊第

一中隊（二小隊欠）ヲ後方警戒開シテ山潤堡ノ東部ヲ
占領セシメタルヲ此間敵ハ其數ヲ増加シ午前十
一時、至リ五、六百名ノ歩兵ヲ見ハシ尚、陸續其兵
力ヲ増加シテ前進シ来シリ鉄山少佐ハ敵ノ意必
ス双台溝西南高地脈ヲ占領スル、在ルヲ察シ若
シ此陣地、シテ敵手、臨ルハ軍ノ前進困難ナ
ナルヘキヲ慮慮シ砲臺ナル掩護ヲナシテ敵ノ前
進ヲ阻止シ勢ヲ次第一掃圍ノ前衛、其一部ヲ進
メテ之ヲ占領シ得ヘキ餘給ヲ堪ヘンヲ効ノ直
チ、前衛司令官、此戰況ヲ通報シ同時、第二中

隊(一小隊半欠)、増進ヲ命シ之ヲ手馬ノ傍ニ置
キ手馬及散兵線ノ右側ノ警戒、任シタリ此時敵
ハ其左翼、騎兵約五十騎、歩兵約五百名ヲ増加シ
射撃スルヲナク前進シ其正面ヨリ来ルモノハ土
城子ノ東、北端ニ達シ其左翼、達スモノハ蔣家屯
ヲ占領シ攻撃釣形ヲ取リテ猛烈ナル射撃ヲ開



キ散開セル騎兵兩中隊ハ必死防戦シタリ然レモ
敵ハ衆ヲ恃シテ漸リ逼迫シ今々其右翼ヲ包圍セ
ントスル勢ヒアリ而レテ正面ヨリ来ルモノハ殆
ント百未突、接近シ左側ヨリ来ルモノハ蔣家屯
ト山間堡トノ間ナル樹林ニ達シ將ニ手馬ニ迫ラ
ントス此時散兵線上ニ於テハ彈藥盡ルニ至ント
シ勢ニ極メテ危急ニ陥レリ茲ニ於テ秋山少佐ハ
第二中隊長浅川大尉、右側ヨリ迫ル敵ニ向テ襲
撃スヘキヲ命シタリ此中隊(一小隊半欠)ハ當時諸
方ニ斥候ヲ派遣シテリテ現在スルモノ中隊長以

浅川大尉清軍ヲ襲
撃ス